2021年3月期第2四半期
決算説明会

2020年11月12日

宝ホールディングス株式会社

本日の内容

Ⅰ．2021年3月期　第2四半期決算 および 2021年3月期 通期業績予想
（発表者：取締役　森　圭助）

1．2021年3月期　第2四半期決算
2．2021年3月期　通期業績予想

Ⅱ．2021年3月期　事業戦略
（発表者：代表取締役社長　木村　睦）

1．宝グループ連結
2．宝酒造（国内事業）
3．宝酒造インターナショナルグループ（海外事業）
4．タカラバイオグループ（バイオ事業）
5．企業価値向上に向けて

TaKaRa　2

▶【2021年3月期第2四半期決算および2021年3月期通期業績予想　発表者:取締役　森　圭助】

▶本日はお忙しい中、宝グループの2021年3月期第2四半期の決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

▶2021年3月期第2四半期の決算と、2021年3月期通期の業績予想についてご説明します。

Ⅰ．2021年3月期　第2四半期決算
および 2021年3月期 通期業績予想

１．2021年3月期第2四半期決算

- 2021年3月期第2四半期の決算についてご説明します。

2021年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

第2四半期累計期間 連結損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2021年3月期 第2四半期実績	前期比 増減	前期比 率(%)	8/4予想比 増減	8/4予想比 率(%)	為替レート影響額 前期比
宝酒造	74,164	▲ 970	▲ 1.3	▲ 263	▲ 0.4	－
宝酒造インターナショナルグループ	31,286	▲ 9,191	▲ 22.7	4,931	+18.7	▲ 957
タカラバイオグループ	17,393	942	+5.7	522	+3.1	▲ 393
その他	14,186	▲ 1,584	▲ 10.0	▲ 702	▲ 4.7	－
調整額	▲ 9,246	1,085	－	790	－	3
売上高	127,784	▲ 9,718	▲ 7.1	5,280	+4.3	▲ 1,348
売上原価	76,361	▲ 8,107	▲ 9.6	2,443	+3.3	
売上総利益	51,422	▲ 1,611	▲ 3.0	2,836	+5.8	
運送費	5,248	41	+0.8	302	+6.1	
広告宣伝費	992	39	+4.2	▲ 1	▲ 0.2	
販売促進費	16,885	▲ 126	▲ 0.7	▲ 175	▲ 1.0	
研究開発費	2,579	521	+25.4	▲ 133	▲ 4.9	
管理費、その他	19,935	▲ 247	▲ 1.2	▲ 753	▲ 3.6	
販売費及び一般管理費	45,639	229	+0.5	▲ 765	▲ 1.6	
宝酒造	1,626	▲ 455	▲ 21.9	672	+70.5	
宝酒造インターナショナルグループ	▲ 396	▲ 1,961	－	1,555	－	
タカラバイオグループ	3,736	701	+23.1	1,236	+49.5	
その他	847	▲ 234	▲ 21.6	24	+3.0	
調整額	▲ 31	109	－	112	－	
営業利益	5,782	▲ 1,840	▲ 24.1	3,602	+165.3	

TaKaRa 4

【宝ホールディングス連結：連結損益計算書（売上高～営業利益）】

＜前期比＞

- 連結売上高は前期比97億1,800万円減収の1,277億8,400万円となりました。
- 売上総利益は、売上高の減少により、前期比16億1,100万円減益の、514億2,200万円となりました。
- 販売費及び一般管理費では、販売促進費、管理費・その他に含まれる人件費が減少しましたが、研究開発費などが増加し、営業利益は、前期比18億4,000万円減益の、57億8,200万円となりました。

- セグメント別では、売上高についてては、タカラバイオグループが、新型コロナウイルス感染症拡大によるPCR検査関連製品の需要増加などにより増収となりましたが、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループが、飲食店需要の減少などにより減収となり、グループ全体で減収となりました。
- 営業利益につきましても、タカラバイオグループが、売上構成比の変化や生産稼働率の向上等により原価率が低下したことなどから増益となったものの、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループにおいて、売上高の減少に伴う売上総利益の減少等により減益となったことから、グループ全体でも減益となりました。

＜8/4予想比＞

- 売上高は、宝酒造インターナショナルグループおよびタカラバイオグループが計画を上回り、営業利益は全てのセグメントで計画を上回ったことで、グループ全体で売上高、営業利益ともに予想を上回りました。

2021年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

第2四半期累計期間 連結損益計算書（営業利益～四半期純利益）

（百万円）

	2021年3月期 第2四半期実績	前期比 増減	前期比 率(%)	8/4予想比 増減	8/4予想比 率(%)
営業利益	5,782	▲ 1,840	▲ 24.1	3,602	+165.3
受取利息・配当金	370	▲ 101	▲ 21.5	70	+23.5
その他営業外収益	261	▲ 125	▲ 32.4	84	+48.0
営業外収益	632	▲ 227	▲ 26.4	154	+32.3
支払利息	176	▲ 27	▲ 13.5	▲ 23	▲ 11.9
その他営業外費用	298	▲ 109	▲ 26.8	105	+54.8
営業外費用	474	▲ 137	▲ 22.4	81	+20.9
経常利益	5,940	▲ 1,931	▲ 24.5	3,675	+162.3
特別利益	3	▲ 37	▲ 92.2	3	－
特別損失	617	325	+111.9	109	+21.5
税金等調整前四半期純利益	5,326	▲ 2,294	▲ 30.1	3,570	+203.3
法人税、住民税及び事業税	2,087	▲ 201	▲ 8.8	1,068	+128.7
法人税等調整額	▲ 189	▲ 235	－		
四半期純利益	3,428	▲ 1,857	▲ 35.1	2,502	+270.2
非支配株主に帰属する四半期純利益	666	▲ 244	▲ 26.9	500	+301.5
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,761	▲ 1,612	▲ 36.9	2,001	+263.4

TaKaRa 5

【宝ホールディングス連結：連結損益計算書（営業利益～親会社株主に帰属する四半期純利益）】

＜前期比＞

- 営業外収支は、営業外の収益と費用のネットで前期に比べ9000万円マイナスに働き、連結経常利益は前期比で19億3,100万円減益となる59億4,000万円となりました。
- 特別損益では、タカラバイオグループの北米での機器事業の一部を終了したことによる事業整理損などを特別損失に計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期比で16億1,200万円の減益となる27億6,100万円となりました。

＜8/4予想比＞

- 経常利益は36億7,500万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は20億100万円、ともに計画を上回りました。

2021年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

第2四半期末 連結貸借対照表

（百万円）

	2020年3月末	2020年9月末	増減
流動資産	168,820	165,648	▲ 3,171
現金及び預金	47,265	51,518	4,253
受取手形及び売掛金	61,017	58,503	▲ 2,514
有価証券	7,352	732	▲ 6,620
たな卸資産	48,976	51,057	2,080
その他	4,207	3,837	▲ 370
固定資産	115,061	119,778	4,716
有形固定資産	69,835	74,094	4,258
無形固定資産	18,700	17,154	▲ 1,546
のれん	11,750	11,085	▲ 665
その他	6,950	6,069	▲ 880
投資その他資産	26,525	28,530	2,004
投資有価証券	21,720	23,621	1,900
その他	4,804	4,908	103
資産合計	283,882	285,427	1,545

	2020年3月末	2020年9月末	増減
流動負債	55,466	48,734	▲ 6,732
支払手形及び買掛金	16,440	14,554	▲ 1,885
借入金・社債	9,787	5,607	▲ 4,179
その他	29,238	28,572	▲ 666
固定負債	47,086	57,283	10,197
借入金・社債	25,448	35,507	10,059
その他	21,637	21,775	137
負債合計	102,553	106,017	3,464
株主資本合計	142,563	141,370	▲ 1,192
資本金・資本剰余金	15,680	15,680	–
利益剰余金	128,564	127,372	▲ 1,192
自己株式	▲ 1,682	▲ 1,682	▲ 0
その他包括利益累計額	5,199	4,685	▲ 513
非支配株主持分	33,566	33,353	▲ 213
純資産合計	181,329	179,409	▲ 1,919

第2四半期累計期間 設備投資額、減価償却費、のれん償却費

	2021年3月期 第2四半期実績	前期比 増減	前期比 率(%)	8/4予想比 増減	8/4予想比 率(%)
設備投資額（有形・無形）	8,448	+27	+0.3		
減価償却費（有形・無形）	3,997	+632	+18.8	+156	+4.1
のれん償却費	432	+8	+2.0	+12	+3.0

TaKaRa 6

【宝ホールディングス連結：連結貸借対照表】

＜資産の部＞

- 流動資産は全体で31億7,100万円減少しました。
- 手元流動性を高めるため運用目的の有価証券を現金化したことにより有価証券が66億2,000万円減少し、現金及び預金が42億5,300万円増加したことと、売上の減少により受取手形及び売掛金が25億1,400万円減少したことが主な要因です。
- 固定資産は全体で47億1,600万円増加しました。
- 有形固定資産が42億5,800万円増加し、無形固定資産が15億4,600万円減少、投資有価証券は19億円増加しました。
- 有形固定資産の増加は、タカラバイオグループで北米における新事業所用の土地、建物を取得したことが主な要因で、投資有価証券の増加は時価評価の差額によるものです。
- 資産合計は3月末に比べ15億4,500万円増加しました。

＜負債の部＞

- 流動負債は67億3,200万円減少しました。1年内償還予定の社債が50億円、と支払手形及び買掛金が18億8,500万円、それぞれ減少したことによるものです。
- 固定負債は長期借入金の増加により、101億9,700万円の増加となりました。この結果、負債合計は前期末に比べ34億6,400万円の増加となりました。

＜純資産の部＞

- 利益剰余金は、親会社株主に帰属する四半期純利益27億6,100万円と、配当金の支払い39億5,400万円などにより、結果として11億9,200万円減少しました。
- その他包括利益累計額の減少5億1,300万円は、3月末対比で為替レートが円高となったことによる為替換算調整勘定の減少が主な要因です。
- 純資産合計は前期末に比べ19億1,900万円減少しました。

2021年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

第2四半期累計期間 連結キャッシュフロー計算書

（百万円）

	2020年3月期 第2四半期実績	2021年3月期 第2四半期実績	増減
営業キャッシュ・フロー	▲ 345	6,081	6,427
税金等調整前四半期純利益	7,620	5,326	▲ 2,294
減価償却費等	3,789	4,796	1,006
運転資本の増減	▲ 7,435	▲ 3,918	3,517
法人税等の支払額	▲ 2,918	▲ 2,406	512
その他	▲ 1,400	2,283	3,684
投資キャッシュ・フロー	▲ 1,922	▲ 3,102	▲ 1,180
有形・無形固定資産の取得	▲ 4,830	▲ 8,821	▲ 3,991
その他	2,907	5,718	2,810
フリー・キャッシュフロー	▲ 2,267	2,978	5,246
財務キャッシュ・フロー	▲ 9,214	1,202	10,417
有利子負債の増減	▲ 5,116	5,874	10,990
自己株式の取得による支出	▲ 0	▲ 0	▲ 0
配当金の支払額	▲ 3,920	▲ 4,336	▲ 415
その他	▲ 178	▲ 335	▲ 157
現金及び現金同等物為替換算差額	▲ 773	▲ 471	301
現金及び現金同等物増減	▲ 12,256	3,709	15,965
現金及び現金同等物期首残高	48,580	44,541	▲ 4,039
現金及び現金同等物期末残高	36,324	48,250	11,926

TaKaRa 7

【宝ホールディングス連結：連結キャッシュフロー計算書】

- 営業キャッシュフローはプラス60億8,100万円で、前期比で64億2,700万円の増加となりました。運転資本に含まれる、売上債権や仕入債務、未払酒税などが減少したのが主な要因です。
- 投資キャッシュフローは、マイナス31億200万円となりました。設備投資による有形・無形固定資産の取得が88億2,100万円あり、前期比では11億8,000万円支出が増加しました。
- 財務キャッシュフローはプラス12億200万円で、前期比で104億1,700万円の増加となりましたが、これは長期借入金による収入が主な理由です。

- 当第2四半期末の現金及び現金同等物残高は前年同期末に比べ119億2,600万円増加しました。

2021年3月期 第2四半期（累計）宝酒造 業績

第2四半期累計期間 損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2021年3月期 第2四半期実績	前期比 増減	前期比 率(%)	8/4予想比 増減	8/4予想比 率(%)
焼酎	24,284	▲691	▲2.8	165	+0.7
清酒	6,792	▲1,510	▲18.2	▲357	▲5.0
ソフトアルコール飲料	24,024	2,215	+10.2	▲32	▲0.1
その他酒類	2,684	▲511	▲16.0	▲69	▲2.5
本みりん	6,288	▲908	▲12.6	▲220	▲3.4
その他調味料	4,976	▲163	▲3.2	▲87	▲1.7
原料用アルコール等	5,114	599	+13.3	339	+7.1
売上高	74,164	▲970	▲1.3	▲263	▲0.4
売上原価	45,183	▲402	▲0.9	▲527	▲1.2
売上総利益	28,981	▲567	▲1.9	264	+0.9
運送費	4,013	50	+1.3	30	+0.8
広告宣伝費	924	48	+5.6	▲6	▲0.7
販売促進費	16,429	▲1	▲0.0	▲261	▲1.6
研究開発費	172	▲23	▲12.1	▲69	▲28.9
管理費，その他	5,815	▲186	▲3.1	▲100	▲1.7
販売費及び一般管理費	27,355	▲111	▲0.4	▲407	▲1.5
営業利益	1,626	▲455	▲21.9	672	+70.5

第2四半期累計期間 売上総利益増減 内訳

※利益の増加要因を「＋」、減少要因を「△」で表示

		前期比増減	数量差	単価差	8/4予想比増減	数量差	単価差
売上総利益 計		▲567	+18	▲586	+264	▲179	+444
主な内訳	焼酎	▲175	▲295	+119	+186	+139	+47
	清酒	▲686	▲580	▲105	▲66	▲105	+38
	ソフトアルコール飲料	+909	+1,608	▲698	+61	▲5	+66
	本みりん	▲609	▲504	▲105	▲77	▲137	+60
	（参考）原価コストダウン	+240	※上記数量差および単価差に含む		+512	※上記数量差および単価差に含む	

TaKaRa

（注）2020年8月4日時点で公表した第2四半期累計期間の業績予想において、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループは2020年5月14日発表予想を据え置いています。

8

【宝酒造:連結損益計算書】

＜前期比＞

- ▶売上高は9億7,000万円減収の741億6,400万円となりました。
- ▶カテゴリー別では、ソフトアルコール飲料や原料用アルコール等が増収となりましたが、それらを除くすべてのカテゴリーで減収となりました。
- ▶新型コロナウイルス感染症の影響による飲食店需要の減少に加え、昨年10月の消費増税前の駆け込み需要があった反動も影響しました。
- ▶売上総利益は、売上高の減少により、5億6,700万円減少の、289億8,100万円となりました。
- ▶販売費及び一般管理費は、前期に比べ1億1,100万円減少の273億5,500万円となりました。運送費、広告宣伝費が増加しましたが、販売促進費や人件費などの管理費は減少しました。
- ▶営業利益は、前期に比べ4億5,500万円の減益となる、16億2,600万円となりました。

＜8/4予想比＞

- ▶前回8/4に公表した業績予想の修正において、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループは、上期および通期の業績予想を期初計画から据え置いていますので、その前提でご説明いたします。
- ▶売上高は、8/4予想との比較では、焼酎や原料用アルコール等は計画を上回ったものの、清酒、ソフトアルコール飲料、本みりん等の売上高の未達をカバーできず、全体の売上高は8/4予想を2億6,300万円下回りました。
- ▶利益面では、原材料のコスト抑制により、売上総利益の段階で計画を2億6,400万円上回り、販売費及び一般管理費の抑制にも努めた結果、営業利益は8/4予想を6億7,200万円上回りました。

2021年3月期 第2四半期（累計）宝酒造インターナショナルグループ 業績

第2四半期累計期間 損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2021年3月期 第2四半期実績	前期比 増減	前期比 率(%)	8/4予想比 増減	8/4予想比 率(%)	為替レート影響額 前期比	為替レート影響額 8/4予想比
海外酒類	4,675	▲ 757	▲ 13.9	664	+16.6	▲ 117	102
海外日本食材卸	27,134	▲ 8,963	▲ 24.8	3,961	+17.1	▲ 848	457
その他	35	▲ 143	▲ 80.1	▲ 8	▲ 18.7	–	–
連結消去	▲ 559	673	–	313	–	8	▲ 12
売上高	31,286	▲ 9,191	▲ 22.7	4,931	+18.7	▲ 957	547
売上原価	22,140	▲ 6,853	▲ 23.6	3,633	+19.6		
売上総利益	9,145	▲ 2,338	▲ 20.4	1,297	+16.5		
運送費	1,011	▲ 191	▲ 15.9	156	+18.3		
広告宣伝費	33	▲ 7	▲ 18.0	▲ 7	▲ 18.0		
販売促進費	223	▲ 111	▲ 33.3	▲ 54	▲ 19.7		
管理費、その他	8,273	▲ 65	▲ 0.8	▲ 352	▲ 4.1		
販売費及び一般管理費	9,541	▲ 376	▲ 3.8	▲ 258	▲ 2.6		
海外酒類	896	▲ 86	▲ 8.8	388	+76.5		
海外日本食材卸	▲ 531	▲ 1,898	–	1,096	–		
その他	▲ 537	▲ 172	–	25	–		
連結消去	▲ 224	195	–	44	–		
営業利益	▲ 396	▲ 1,961	–	1,555	–		

TaKaRa

（注）2020年8月4日時点で公表した第2四半期累計期間の業績予想において、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループは2020年5月14日発表予想を据え置いています。

9

【宝酒造インターナショナルグループ：連結損益計算書】

- 売上高は、海外酒類が7億5,700万円、海外日本食材卸が89億6,300万円、それぞれ減収となり、全体では91億9,100万円減収の312億8,600万円となりました。
- 海外日本食材卸を中心に、世界各地でのロックダウン等の影響を大きく受けました。
- 売上総利益は、売上高の減少により、23億3,800万円減益の、91億4,500万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、運送費や販売促進費、管理費その他に含まれる人件費などの減少により、全体では3億7,600万円の減少となり、営業利益は19億6,100万円の減益となる、マイナス3億9,600万円となりました。

＜8/4予想比＞

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響が当第2四半期累計期間においては想定したほど大きくならず、また海外の各グループ会社において、小売店への販路拡大やテイクアウト需要への対応など、コロナ禍での販売拡大に努めたことで、売上高は49億3,100万円、営業利益は15億5,500万円、計画を上回りました。

Ⅰ．2021年3月期 第2四半期決算
および 2021年3月期 通期業績予想

２．2021年3月期 通期業績予想

▶2021年3月期の通期の業績予想についてご説明します。

2021年3月期 宝ホールディングス 通期 連結業績予想

通期予想 連結損益計算書（売上高～当期純利益）

（百万円）

	2021年3月期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	8/4予想比 増減	8/4予想比 率(%)	為替レート影響額 前期比
宝酒造	154,502	1,360	+0.9	▲ 655	▲ 0.4	－
宝酒造インターナショナルグループ	68,374	▲ 14,391	▲ 17.4	▲ 2,156	▲ 3.1	▲ 1,136
タカラバイオグループ	40,800	6,234	+18.0	1,200	+3.0	▲ 542
その他	29,392	▲ 2,409	▲ 7.6	▲ 2,324	▲ 7.3	－
調整額	▲ 19,068	2,014	－	2,135	－	5
売上高	274,000	▲ 7,191	▲ 2.6	▲ 1,800	▲ 0.7	▲ 1,673
売上原価	164,700	▲ 7,874	▲ 4.6	▲ 2,224	▲ 1.3	
売上総利益	109,300	682	+0.6	425	+0.4	
運送費	11,100	99	+0.9	▲ 76	▲ 0.7	
広告宣伝費	2,100	48	+2.4	7	+0.3	
販売促進費	35,000	▲ 73	▲ 0.2	1	+0.0	
研究開発費	5,600	1,340	+31.5	▲ 6	▲ 0.1	
管理費、その他	41,700	1,304	+3.2	▲ 1,301	▲ 3.0	
販売費及び一般管理費	95,500	2,718	+2.9	▲ 1,375	▲ 1.4	
宝酒造	4,700	524	+12.6	415	+9.7	
宝酒造インターナショナルグループ	252	▲ 3,280	▲ 92.9	107	+73.8	
タカラバイオグループ	8,000	1,725	+27.5	1,500	+23.1	
その他	1,654	▲ 364	▲ 18.1	▲ 314	▲ 16.0	
調整額	▲ 806	▲ 641	－	92	－	
営業利益	13,800	▲ 2,036	▲ 12.9	1,800	+15.0	
経常利益	14,000	▲ 2,269	▲ 13.9	1,800	+14.8	
親会社株主に帰属する当期純利益	7,100	▲ 1,880	▲ 20.9	1,148	+19.3	

TaKaRa 11

【宝ホールディングス連結：通期業績予想】

▶通期の業績予想につきましては、当初新型コロナウイルス感染症の影響が2020年7月頃まで続くことを前提としておりましたが、これがさらに長期化することを織り込み、連結売上高は、8/4予想を18億円下回る2,740億円を計画しています。

▶利益面では、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループを中心に販売費及び一般管理費の抑制に努めることに加え、タカラバイオグループにおける生産稼働率の向上による売上原価率の改善を織り込み、全体の営業利益は、8/4予想を18億円上回る138億円を計画しています。

▶経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益についても、それぞれ前回予想を上回る見込みです。

2021年3月期 宝酒造 業績予想

通期予想 損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2021年3月期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	8/4予想比 増減	8/4予想比 率(%)
焼酎	49,260	▲ 459	▲ 0.9	1,706	+3.6
清酒	17,172	▲ 3,316	▲ 16.2	▲ 1,875	▲ 9.8
ソフトアルコール飲料	47,800	4,776	+11.1	▲ 667	▲ 1.4
その他酒類	5,747	▲ 658	▲ 10.3	▲ 78	▲ 1.3
本みりん	13,994	13	+0.1	▲ 114	▲ 0.8
その他調味料	10,737	406	+3.9	171	+1.6
原料用アルコール等	9,783	599	+6.5	202	+2.1
売上高	154,502	1,360	+0.9	▲ 655	▲ 0.4
売上原価	93,465	642	+0.7	▲ 606	▲ 0.6
売上総利益	61,037	718	+1.2	▲ 49	▲ 0.1
運送費	8,437	294	+3.6	▲ 62	▲ 0.7
広告宣伝費	2,043	160	+8.5	72	+3.7
販売促進費	33,791	▲ 53	▲ 0.2	▲ 145	▲ 0.4
研究開発費	404	21	+5.5	▲ 82	▲ 16.9
管理費、その他	11,662	▲ 228	▲ 1.9	▲ 247	▲ 2.1
販売費及び一般管理費	56,337	194	+0.3	▲ 464	▲ 0.8
営業利益	4,700	524	+12.6	415	+9.7

売上総利益増減 内訳

※利益の増加要因を「+」、減少要因を「△」で表示

	前期比増減	（参考）原価コストダウン	8/4予想比増減	（参考）原価コストダウン
売上総利益 計	+718	+226	▲49	+506

TaKaRa

（注）2020年6月4日時点で公表した通期の業績予想において、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループは2020年5月14日発表予想を据え置いています。

12

【宝酒造：通期業績予想】

- 売上高は1,545億200万円と、8/4予想を6億5,500万円下回るものの、営業利益は8/4予想を4億1,500万円上回る47億円を計画しています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響の長期化による売上高の減少を、原材料コストの抑制と販売費及び一般管理費の抑制に努めることで補う計画です。

2021年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 業績予想

通期予想 損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2021年3月期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	8/4予想比 増減	8/4予想比 率(%)	為替レート影響額 前期比	為替レート影響額 8/4予想比
海外酒類	9,860	▲ 1,505	▲ 13.2	▲ 97	▲ 1.0	▲ 212	121
海外日本食材卸	59,917	▲ 13,454	▲ 18.3	▲ 2,629	▲ 4.2	▲ 949	1,027
その他	56	▲ 148	▲ 72.7	▲ 12	▲ 17.6	－	－
連結消去	▲ 1,459	716	－	582	－	25	▲ 21
売上高	68,374	▲ 14,391	▲ 17.4	▲ 2,156	▲ 3.1	▲ 1,136	1,127
売上原価	48,328	▲ 10,554	▲ 17.9	▲ 916	▲ 1.9		
売上総利益	20,046	▲ 3,837	▲ 16.1	▲ 1,240	▲ 5.8		
運送費	2,219	▲ 437	▲ 16.5	▲ 128	▲ 5.5		
広告宣伝費	82	▲ 2	▲ 2.8	▲ 10	▲ 10.9		
販売促進費	597	▲ 159	▲ 21.1	▲ 134	▲ 18.3		
管理費、その他	16,896	41	+0.2	▲ 1,075	▲ 6.0		
販売費及び一般管理費	19,794	▲ 557	▲ 2.7	▲ 1,347	▲ 6.4		
海外酒類	1,956	▲ 383	▲ 16.4	172	+9.6		
海外日本食材卸	▲ 161	▲ 2,896	－	▲ 182	－		
その他	▲ 1,070	▲ 216	－	95	－		
連結消去	▲ 473	216	－	22	－		
営業利益	252	▲ 3,280	▲ 92.9	107	+73.8		

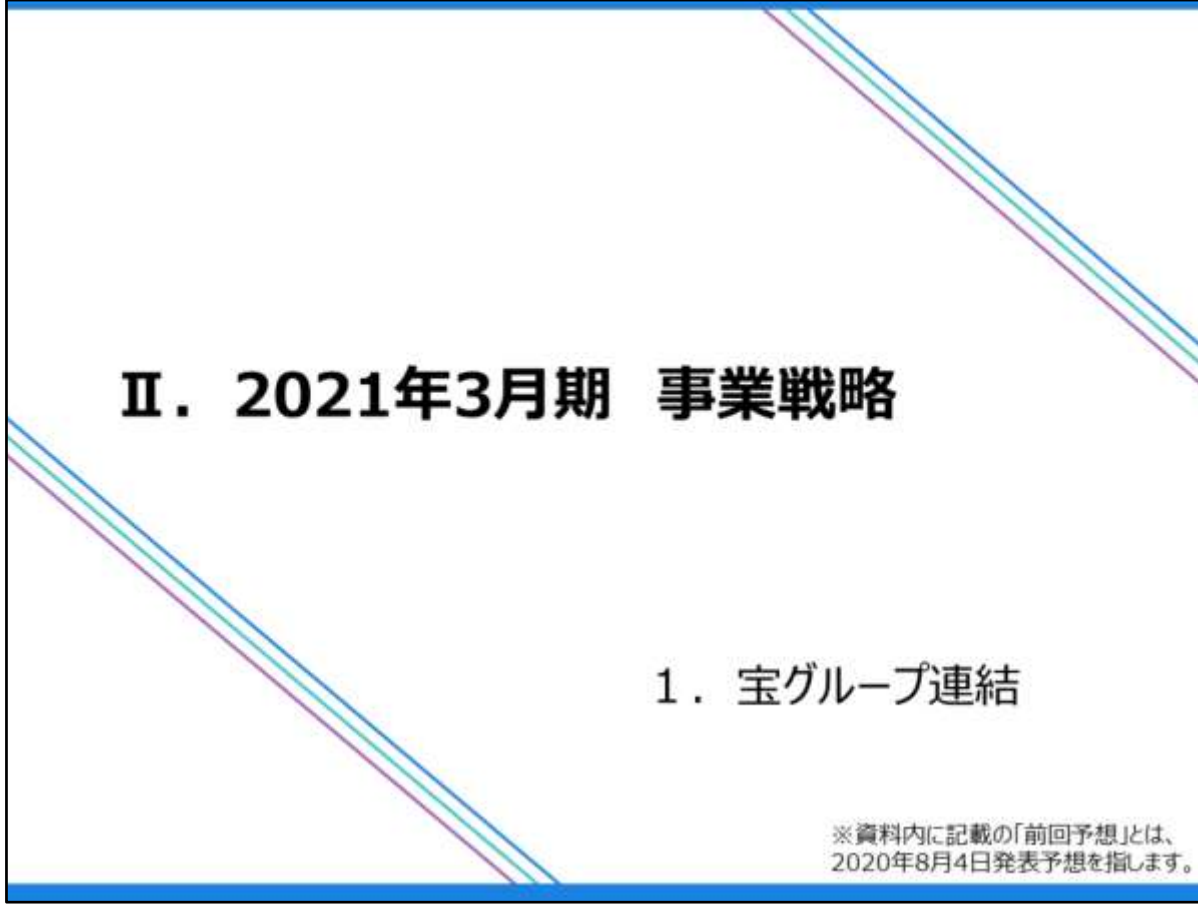
TaKaRa

（注）2020年8月4日時点で公表した通期の業績予想において、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループは2020年5月14日発表予想を揃え置いています。

13

【宝酒造インターナショナルグループ：通期業績予想】

▶売上高は8/4予想を21億5,600万円下回る683億7,400万円を計画し、販売費及び一般管理費の圧縮に努めることで、営業利益は8/4予想を1億700万円上回る2億5,200万円となる計画です。



【2020年3月期事業戦略　　発表者:代表取締役社長　木村 睦】

▶2021年3月期の事業戦略についてご説明します。

2021年3月期上期概況と通期予想

2021年3月期上期 概況

- 宝グループ連結の売上高は、宝酒造の家庭用製品の伸長やタカラバイオグループのPCR検査関連製品の販売が増加するも、新型コロナウイルス感染症の影響による海外での飲食店需要の減少や、昨年の消費増税前の駆け込み需要の反動もあり、対前期で減収。
- 営業利益は、タカラバイオグループが対前期で増益となるも、宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの減収による売上総利益減少の影響が大きく、グループ全体で減益。
- 前回予想に対しては、新型コロナウイルス感染症による影響が上期において想定したほど大きくならなかったことに加え、各セグメントともコロナ禍での販売拡大に努めたことで、売上高・営業利益ともに上回る。

2021年3月期通期 予想

- 売上高は、宝酒造の家庭用製品の伸長やタカラバイオグループのPCR検査関連製品の需要は持続するものの、主に宝酒造インターナショナルグループで新型コロナウイルス感染症の長期化の影響が見込まれることから、グループ全体では前回予想を下回る見通し。
- 営業利益は、各セグメントで販売費及び一般管理費の抑制に努めることに加え、タカラバイオグループで売上原価率が大きく改善することも寄与し、前回予想を上回る見通し。

▸宝グループ連結の上期実績と通期予想の概況は記載の通りです。

Ⅱ．2021年3月期　事業戦略

2．宝酒造（国内事業）

▶各グループの事業戦略について、国内事業を担う宝酒造からご説明します。

2021年3月期上期概況と通期予想（宝酒造）

2021年3月期上期 概況

- 売上高は、前期に対しては、巣ごもり需要の拡大により、ソフトアルコール飲料（RTD）や甲類焼酎が好調に推移し、消毒用途としての需要増で原料用アルコール等も伸長するが、外食需要の低迷に加えて昨年の消費増税前の駆け込み需要の反動や、本年10月の清酒減税を前にした清酒の買い控えにより、全体では減収。
- 営業利益は、売上高の減少に加え、原材料のコストアップや減価償却費の増加により減益。
- 前回予想に対しては、売上高はほぼ計画通りの水準となり、原材料コストや販売費及び一般管理費の抑制に努めたことで、営業利益は上回る。

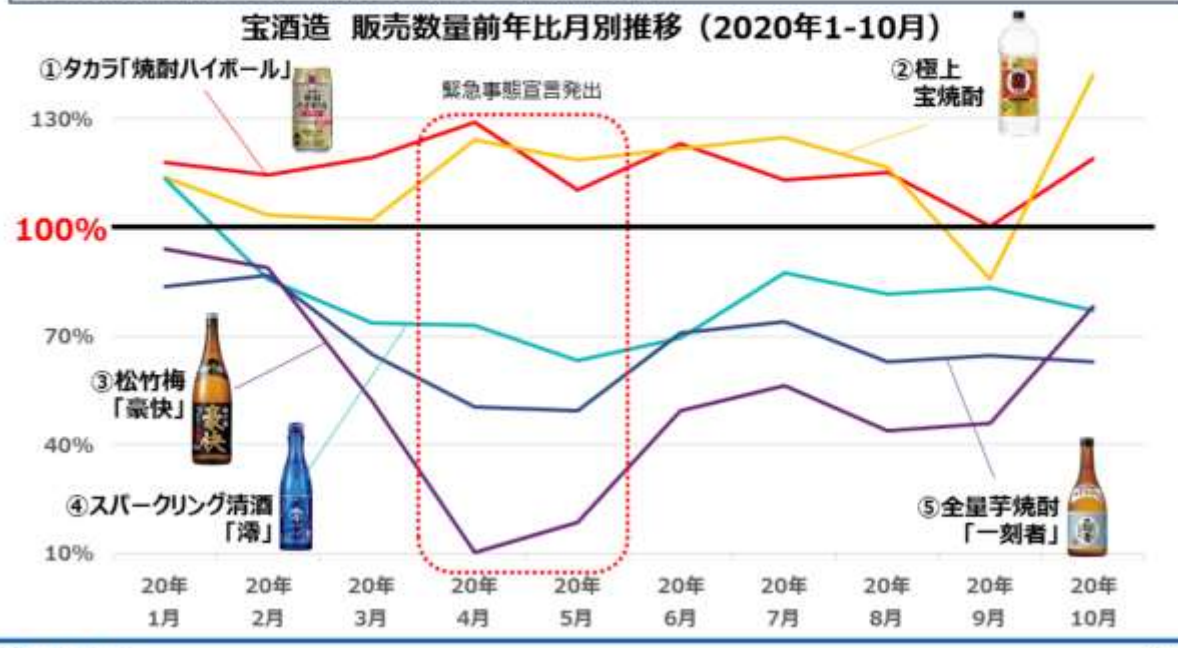
2021年3月期通期 予想

- 売上高は、前期に対して、業務用製品の落ち込みが続くと想定するも、下期でソフトアルコール飲料および本みりんなどが増収となり、通期では全体で増収の計画。前回予想に対しては若干下回る見込み。
- 営業利益は、粗留アルコール等の原材料のコストダウンと営業活動の効率化による販売費及び一般管理費の抑制に引き続き努めることで、前期および前回予想をともに上回る見込み。

▸宝酒造の上期実績と通期予想の概況は記載の通りです。

宝酒造　家庭用・業務用製品月別販売推移

家庭用比率が高い製品（①②）は、巣ごもり需要拡大により４月の緊急事態宣言以降も好調に推移。一方、業務用比率が相対的に高い製品（③④⑤）は、４-５月を底に回復の兆しは見えるものの、依然として厳しい状況が続く。



TaKaRa　18

▶宝酒造における、家庭用ルートと業務用ルートの動向についてご説明します。

▶①タカラ「焼酎ハイボール」や②「極上宝焼酎」など、家庭用比率が高い製品については、前年を超える水準で推移しています。

▶一方、③松竹梅「豪快」（業務用ルート限定）や④スパークリング清酒「澪」、⑤全量焼酎「一刻者」といった業務用への販売比率が相対的に高い製品においては、4月、5月を底に、一定の回復の兆しは見られるものの、依然として厳しい状況が続いています。

事業戦略

①和酒No.1企業としての強みを活かした、利益創出型の企業体質への進化

タカラ「焼酎ハイボール」の高付加価値品、寶「極上レモンサワー」ブランド、「澪」ブランドの育成等を通じ、各カテゴリーでの商品ミックスの改善による収益性向上に努める。

タカラ「焼酎ハイボール」
<立石 宇ち多゛（うちだ）のうめ割り風>

寶「極上レモンサワー」

「澪」・「一果」

②お客様のニーズを捉え、利益の視点を高めた商品開発・育成の推進

当期より事業本部制を廃止し、技術部門と商品企画・育成部門が一体となった組織へ再編することで、市場や顧客ニーズの変化への対応力を向上させる。

TaKaRa 19

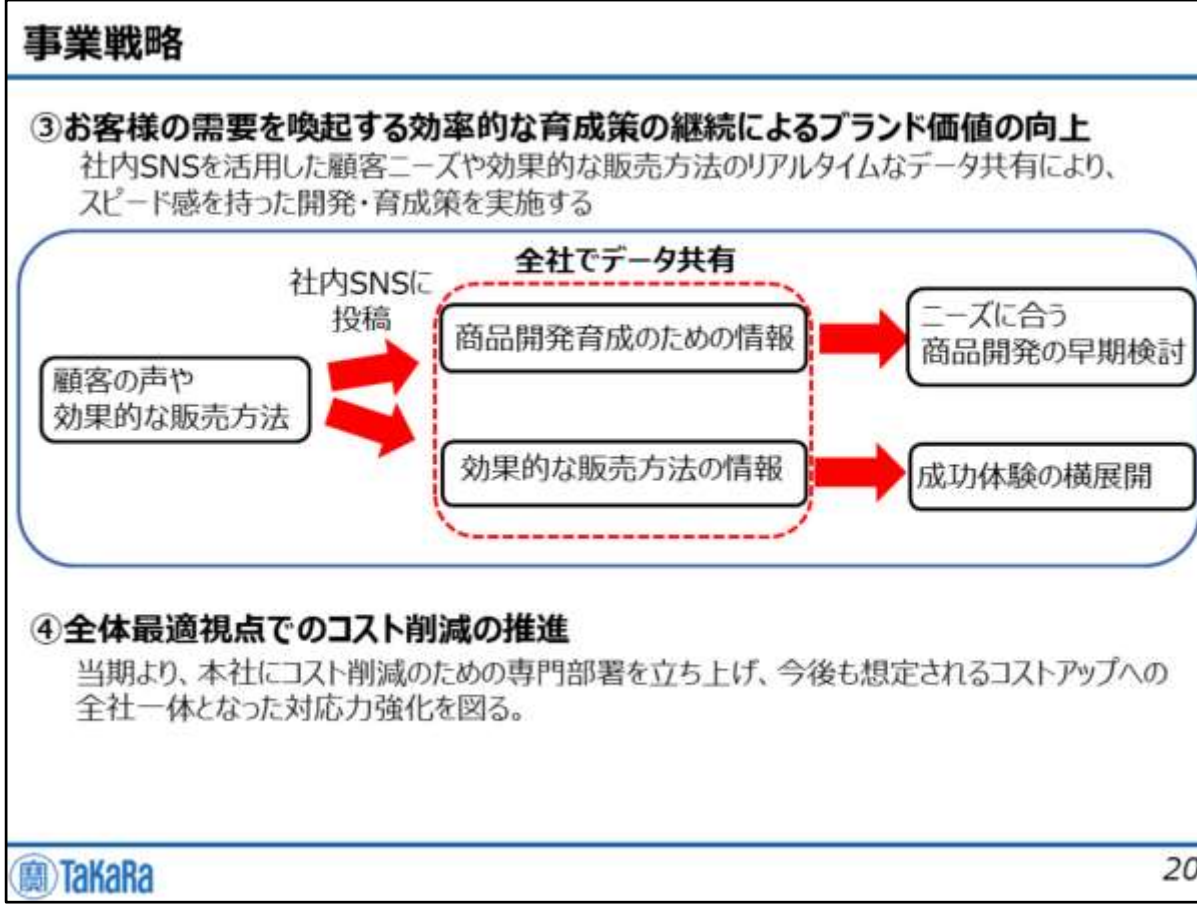
▸宝酒造の事業戦略についてご説明します。

①和酒No.1企業としての強みを活かした、利益創出型の企業体質への進化

▸好調の続くソフトアルコール飲料に、“タカラ「焼酎ハイボール」”の高付加価値品や、人気のレモンサワーを手軽に楽しめる“寶「極上レモンサワー」”、清酒ではスパークリング清酒「澪」や「一果」など、収益性の高い商品の育成を継続し、商品ミックスの改善による収益性の向上に努めています。

②お客様のニーズを捉え、利益の視点を高めた商品開発・育成の推進

▸当期より事業本部制を廃止し、技術部門と商品企画・育成部門が一体となった組織に再編することで、これまで以上に市場や顧客ニーズの変化への対応力を向上させます。



（事業戦略　続き）

③お客様の需要を喚起する効率的な育成策の継続によるブランド価値の向上

▸前期より立ち上げた社内SNSを通じて、社員が小売店などの現場で集めたお客様の声や効果的な販売方法に関する情報を集約し、リアルタイムにその情報を全社に共有することで、ニーズに合った商品開発や、成功体験の横展開に活用する試みを進めています。

④全体最適視点でのコスト削減の推進

▸当期より、本社にコスト削減を検討・推進するための専門部署を立ち上げ、今後も想定されるコストアップへの対応力強化を、全社一体となって進めます。

Ⅱ．2021年3月期　事業戦略

３．宝酒造インターナショナルグループ（海外事業）

▶海外事業を展開する宝酒造インターナショナルグループについてご説明します。

2021年3月期上期概況と通期予想（宝酒造インターナショナルグループ）

2021年3月期上期　概況

- 新型コロナウイルス感染拡大による世界各地でのロックダウン等により、主要な顧客である飲食店を中心に需要が減少するなど、海外事業全体に大きな影響。
- 海外酒類事業は、飲食店向けの清酒等の落ち込みにより対前期では減収減益となるも、ウイスキー２社が堅調に推移し、前回予想に対しては売上・利益ともに上回る。
- 海外日本食材卸事業は、飲食店向けの販売構成が高く、新型コロナウイルス感染症による影響を特に大きく受けたが、上期においては想定したほど大きくならなかったことや、小売店など家庭向けへの販路開拓に努めたこともあり、売上・利益ともに前回予想を上回った。

2021年3月期通期　予想

- 新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、売上高は前期を大きく下回り、下期での正常化を前提としていた前回予想に対しても未達となる見通し。
- 海外酒類事業はウイスキー2社の牽引により比較的堅調な推移を見込むが、海外日本食材卸事業の落ち込みが続くものと予想。
- 利益面では、前期に対しては大幅な減益となるものの、販売費及び一般管理費の抑制等により、海外事業全体の営業利益は前回予想を上回る見通し。

▸宝酒造インターナショナルグループの上期実績と通期予想の概況は記載の通りです。

事業概況＜海外酒類事業＞

（現地通貨ベース）		21/03期 第2四半期実績	前期比 増減	前期比 率(%)	前回予想比 増減	前回予想比 率(%)	21/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	前回予想比 増減	前回予想比 率(%)
米国宝酒造	売上高	12,409	▲ 5,635	▲ 31.2	＋198	＋1.6	27,575	▲ 8,116	▲ 22.7	▲ 2,930	▲ 9.6
（千USドル）	営業利益	▲ 504	▲ 2,245	－	＋77	―	720	▲ 3,177	▲ 81.5	▲ 905	▲ 55.7
宝酒造食品	売上高	17,380	▲ 7,583	▲ 30.4	▲ 315	▲ 1.8	41,703	▲ 15,555	▲ 27.2	▲ 9,662	▲ 18.8
（千元）	営業利益	▲ 466	▲ 1,693	－	▲ 65	―	371	▲ 4,496	▲ 92.4	▲ 2,854	▲ 88.5
トマーチン	売上高	8,707	▲ 71	▲ 0.8	＋2,060	＋31.0	18,702	▲ 1,075	▲ 5.4	＋844	＋4.7
（千ポンド）	営業利益	2,290	＋401	＋21.2	＋1,254	＋121.0	5,128	＋37	＋0.7	＋707	＋16.0
エイジ・インターナショナル	売上高	14,435	＋2,405	＋20.0	＋2,924	＋25.4	29,129	＋2,139	＋7.9	＋3,021	＋11.6
（千USドル）	営業利益	6,604	＋1,278	＋24.0	＋1,606	＋32.2	12,998	＋952	＋7.9	＋1,722	＋15.3

〈米国宝酒造〉 主力である飲食店向けの需要減少と工場稼働率の低下による原価率上昇等により、売上・利益ともに前期を下回って推移。上期は小売店向けを注力したことにより計画は上回るも、通期では計画未達となる見通し。

〈宝酒造食品〉 量販店ルートへの拡売を進めるも、飲食店向けの中国産清酒の減少が大きく、売上高は計画未達となる見通し。利益面でも、収益性の高い中国産清酒の落ち込みにより計画未達に。

〈トマーチン〉 売上高は、米国向けボトル製品の販売減少等により前期を下回るものの、バルク製品の拡売等により計画は上回る。利益面では、販売費及び一般管理費の抑制も奏功し、上期に引き続き通期でも計画を上回る見通し。

〈エイジ・インターナショナル〉 小売店向けが中心の米国での販売が伸長し、上期は前期・計画ともに大きく上回って推移。販売費及び一般管理費のコントロールにも努めることで、通期でも増収増益を目指す。

TaKaRa 23

▶海外酒類事業の概況は記載の通りです。

事業概況＜海外日本食材卸事業①＞

（現地通貨ベース）		21/03期 第2四半期実績	前期比 増減	前期比 率(%)	前回予想比 増減	前回予想比 率(%)	21/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	前回予想比 増減	前回予想比 率(%)
フーデックスグループ	売上高	68,503	▲ 18,091	▲ 20.9	＋16,437	＋31.6	158,282	▲ 21,531	▲ 12.0	＋4,992	＋3.3
（チューロ）	営業利益	3,252	▲ 4,599	▲ 58.6	＋5,621	―	9,405	▲ 6,691	▲ 41.6	＋3,605	＋62.2
タザキフーズ	売上高	18,748	▲ 3,186	▲ 14.5	＋2,232	＋13.5	42,000	▲ 4,099	▲ 8.9	＋538	＋1.3
（チポンド）	営業利益	230	▲ 675	▲ 74.5	＋637	―	1,399	▲ 256	▲ 15.5	＋670	＋92.0

〈フーデックスグループ〉 主力の飲食店向け販売は低調に推移したものの、当初の想定までは減少せず、また販売費及び一般管理費の抑制にも努めた結果、売上・利益ともに上期は計画を上回る。通期においても、既存顧客との関係維持・強化やテイクアウト・デリバリーの新規開拓により、売上・利益計画の達成を目指す。

〈タザキフーズ〉 飲食店向けは減少したものの、ロックダウンに伴う巣ごもり需要を受けた量販店やネット通販等の小売向け販売が伸長。販売費及び一般管理費の抑制にも努め、通期の売上・利益はともに計画を上回る見通し。

▸海外日本食材卸事業の概況は記載の通りです(1/2)。

事業概況＜海外日本食材卸事業②＞

（現地通貨ベース）		21/03期 第2四半期実績	前期比		前回予想比		21/03期 通期予想	前期比		前回予想比	
			増減	率(%)	増減	率(%)		増減	率(%)	増減	率(%)
ミューチャルトレーディング	売上高	132,081	▲ 50,287	▲ 27.6	＋10,221	＋8.4	282,695	▲ 86,517	▲ 23.4	▲ 38,669	▲ 12.0
（千US ドル）	営業利益	▲ 8,906	▲ 12,403	－	＋2,900	－	▲ 16,970	▲ 23,195	－	▲ 7,619	－
ニッポンフード	売上高	23,580	▲ 3,895	▲ 14.2	＋2,694	＋12.9	50,069	▲ 7,111	▲ 12.4	▲ 1,723	▲ 3.3
（千AUS ドル）	営業利益	119	＋1,699	－	＋1,931	－	1,254	＋3,617	－	＋2,820	－
東京共同貿易	売上高	2,321			▲ 677	▲ 22.6	6,577			▲ 1,677	▲ 20.3
（千円）	営業利益	37			▲ 39	▲ 51.0	227			▲ 98	▲ 30.1

〈ミューチャルトレーディング〉 主力の飲食店向け販売が大きく減少する中、テイクアウト需要への取り組み等により上期の売上高は計画を上回るも、通期では計画未達に。利益面では、収益性の高い酒類の販売減少による利益率の低下等もあり、通期で営業赤字を見込む。

〈ニッポンフード〉 都市部の飲食店での落ち込みを、郊外や小売向け販売の強化で補い、上期では売上・利益ともに計画を上回る。通期では、売上高は計画未達となるものの、値上げの浸透による利益率向上や為替変動による仕入コスト低減、販売費及び一般管理費の抑制等により利益面では計画を上回る見通し。

〈東京共同貿易〉 米国向けで飲食店比率の高い日本産の地酒やラーメン商材等の不振が続いており、上期に続いて通期でも、売上高・営業利益ともに計画未達となる見通し。

※東京共同貿易は2020年3月期中より連結対象となったため、前期対比は非表示

▶海外日本食材卸事業の概況は記載の通りです(2/2)。

事業戦略

フーデックスグループ限定 日本酒ブランドを開発	
商品名	「L'ATELIER DU SAKE」<大吟醸> （直訳「お酒の研究所」）
ターゲット	日本酒エントリー層や日本酒未体験の欧米人
販売地域	欧州
展開時期	2020年10月より輸出開始

ミューチャルトレーディング LA倉庫の拡張移転を完了	
対象拠点	ロサンゼルス本社および倉庫
総面積	300千平方フィート （従来より60%超増床。保管容量は約3倍に）
目的	従来、近隣５箇所に分散していた倉庫を集約し、配送効率の向上を図る
稼働時期	2020年11月より使用開始

TaKaRa 26

▸宝酒造インターナショナルグループの事業戦略について、直近のトピックをご説明します。

◆フーデックスグループ限定　日本酒ブランドを開発

▸「L'ATELIER DU SAKE（アトゥリエ・ドウ・サケ）」＜大吟醸＞という商品名で、主に日本酒をあまり飲んだことがない欧米人をターゲットに、フーデックスグループの販売エリア限定での展開で、この10月より輸出を開始しました。

▸これまでは、宝酒造が国内で展開する商品を海外に輸出することが中心でしたが、この商品は、フーデックスの現地スタッフが商品デザインやネーミングを考え、商品の中身には、宝酒造の「白壁蔵」で製造した大吟醸を使用するという、国内と海外のコラボレーションを実現した当社グループの強みを活かしたブランドです。

◆ミューチャルトレーディング　LA倉庫の拡張移転を完了

▸当初は本年5月頃の移転を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により工事が遅延し、この11月より使用開始となりました。

▸従来より60%以上の増床、保管容量は約3倍となり、配送効率を向上させることで、今後も拡大が期待される海外の日本食市場において競争力を高めていく考えです。

Ⅱ．2021年3月期　事業戦略

４．タカラバイオグループ
（バイオ事業）

▶バイオ事業を展開するタカラバイオグループについてご説明します。

2021年3月期上期概況と通期予想（タカラバイオグループ）

2021年3月期上期　概況

- 売上高は、前期に計上していた遺伝子治療に関する対価料収入等の減少により遺伝子医療が減収となり、また新型コロナウイルス感染拡大による世界各地での研究開発活動の停滞が主力の研究用試薬の販売に影響を及ぼしたものの、コロナ禍でのPCR検査関連製品の需要増やDNAワクチン関連製造受託の引き合いを受け、前期および8月に上方修正した会社計画をともに上回った。
- 利益面でも、売上構成の変化や生産稼働率の向上により売上原価率が改善し、売上総利益が大きく増加したことなどにより、前期・前回予想をともに大きく上回った。

2021年3月期通期　予想

- 新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、一般の研究用試薬等の販売は伸び悩むものの、PCR検査関連製品やDNAワクチン関連製造受託を含む、さらなるCDMOサービスの需要増を織り込み、売上高は前回上方修正した予想をさらに上回る見通し。
- 利益面でも、売上高の増加と、売上構成の変化や生産稼働率の向上等による売上原価率の低下により、売上総利益が前回予想から大きく増加する見込みであり、販売費及び一般管理費は増加するものの、営業利益は前回予想を上回る見通し。

▸タカラバイオグループの上期実績と通期予想の概況は記載の通りです。

▸タカラバイオグループの事業戦略についてご説明します。

▸当期は新型コロナウイルス感染拡大防止のための社会要請に最優先で対応しています。

◆PCR検査試薬・装置の供給

▸新型コロナウイルスの検査キットを体外診断用医薬品として販売開始しました。
▸また、用途に応じたPCR装置の豊富なラインアップにより、検査需要の増加に対応していく方針です。

◆CDMO事業の拡大

▸新型コロナウイルスに対するDNAワクチン関連の製造などを受託することに伴い、「遺伝子・細胞プロセッシングセンター2号棟」などの未実装エリアの追加整備を進めています。
▸厚生労働省の補助金も活用し、DNAワクチンを含む、再生医療等製品の製造キャパシティを拡大し、要員も増員することで対応の強化に努めます。

Ⅱ．2021年3月期　事業戦略

５．企業価値向上に向けて

▶「企業価値向上に向けて」として、新型コロナウイルス感染症に対する当社グループとしての取り組みと考え方についてご説明します。

新型コロナウイルス感染拡大を受けた取り組み

国内事業	➢ 巣ごもり需要に対応した商品の開発 ➢ オンラインでのお酒の楽しみ方をSNSやWEBサイトで継続的に紹介 ➢ 消毒用途としての原料用アルコールの供給継続
海外事業	➢ スーパーなど小売店の販路拡大、ECサイトの開設 ➢ 小売向けアイテムの拡充（業務用中心の大容量 ⇒小容量への展開等） ➢ 飲食店のテイクアウト需要に対し、容器や箸などを含めたラインアップ強化
バイオ事業	➢ PCR検査関連製品の安定供給の継続 ➢ ワクチン開発等への協力

TaKaRa 31

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界経済は大きな打撃を受け、人々の生活にも様々な変化をもたらしました。
- こうした中、当社グループは各セグメントにおいて記載のような取り組みを進めています。

ニューノーマルにおける価値創造

＜ニューノーマル＞

- 消費行動や安全・健康意識の変化
- 働き方の多様化など、様々な社会課題への対応

＜宝グループの使命＞

- 企業理念に基づく事業活動の実践
- 長期経営構想に掲げるVisionの実現

企業理念

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します

長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」

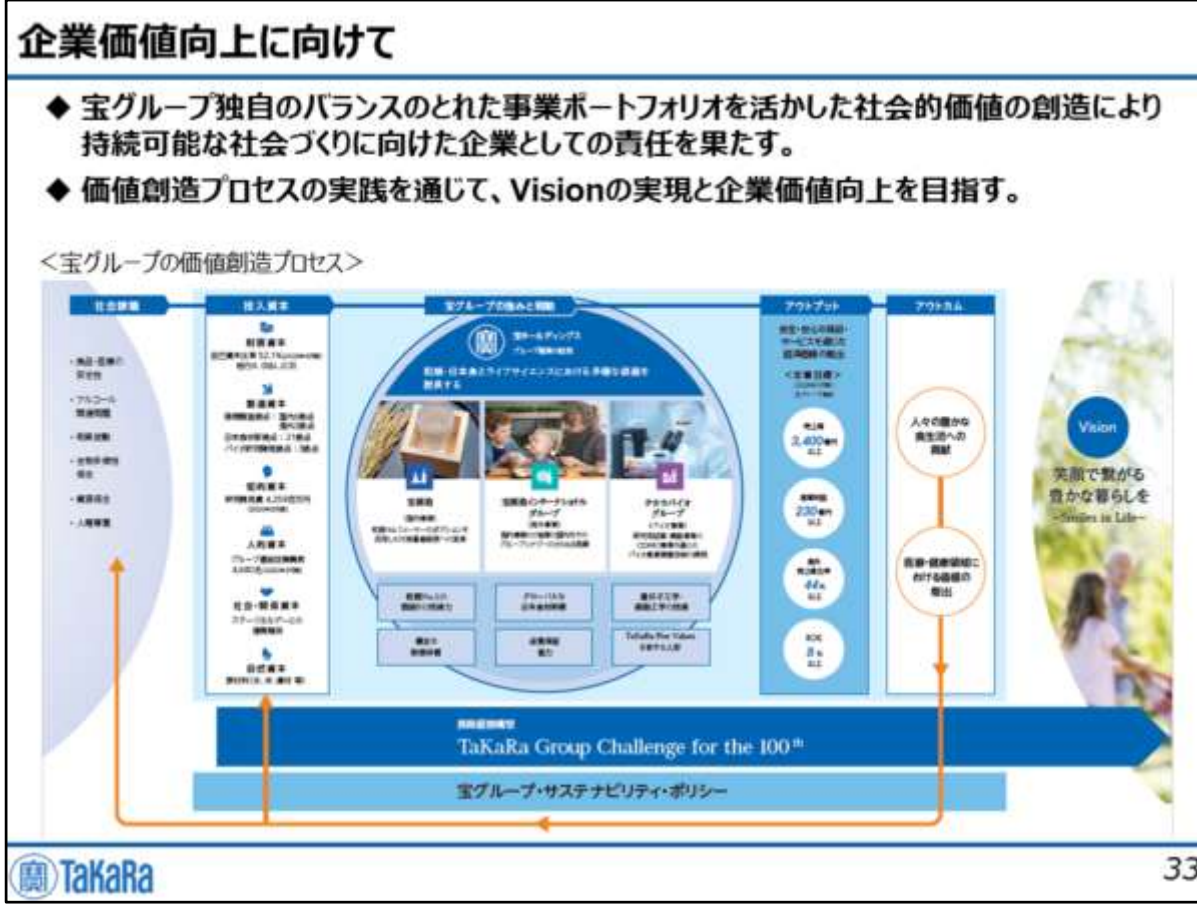
Vision 笑顔で繋がる豊かな暮らしを ～Smiles in Life～

宝グループは、おいしさを追求する技術と革新的なバイオ技術によって
和酒・日本食とライフサイエンスにおける多様な価値を
安全・安心に提供し続ける企業グループとなることで
人と人の繋がりと笑顔にあふれた健康的で豊かな
日々の暮らしへの貢献を目指します。

TaKaRa 32

▶新型コロナウイルス感染症の拡大には、未だ収束の兆しは見えず、先行き不透明な状況が続いていますが、やがて訪れるであろうニューノーマルにおいては、人々の消費行動や安全・健康意識の変化、あるいは働き方の多様化など、さまざまな社会課題への対応が求められると予想されます。

▶そうした中で当社グループが果たすべき役割は、企業理念に基づく事業活動を実践し、長期経営構想に掲げるVisionを実現していくことそのものであると考えています。



▸当社グループの「価値創造プロセス」にも示しているように、国内事業、海外事業、バイオ事業の3つの事業を有することが、当社グループの特徴であり、強みだと考えています。

▸ニューノーマルの到来、あるいはその先の将来においても様々な環境変化が訪れる可能性がありますが、いかなる時代においても、当社グループはこの独自のバランスのとれた事業ポートフォリオを活かした社会的価値の創造により、持続可能な社会づくりに向けた企業としての責任を果たしてまいります。

▸そして、3つの事業を核とした価値創造プロセスの実践を通じて、長期経営構想に掲げるVisionの実現と企業価値の向上を目指します。

将来見通しに関する注意事項

この資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ先＞
宝ホールディングス株式会社
財務・ＩＲ部
E-Mail ir@takara.co.jp
TEL 075-241-5124